

## 第2学年 てつがく創造活動 活動案

指導者 下田 愛佳里

1. 訪問日 令和3年11月9日(火) 時間 13:15~14:15 (60分間)
2. 教科名 2年「みがく」(「てつがく創造活動」につながる低学年教育の学び)
3. 単元名 のどかプロジェクト

### 4. 研究開発の目標と本単元の目標との関係性

本校の研究開発目標は「てつがく創造活動」を通してメタ認知スキル・社会情意的スキルを育成することである。「てつがく創造活動」の原型は、本校低学年教育「みがく」の時間におけるサークル対話とプロジェクト型活動にある。サークル対話は「てつがく」対話に、プロジェクト型活動は創造活動にそれぞれボトムアップ的につながっていく。

プロジェクト型活動では子どもたちが自分の興味・関心に基づいて学ぶ。そこでは自分の好きなことに自由にかかわり専心する姿、没頭する姿が見られる。活動に対する子どもの自由度が増せば増すほど社会情意的スキルは育まれると言われている。これが社会情意的スキルの育成と「没頭すること」の関連性である。

サークル対話や「てつがく」対話は「てつがく創造活動」において自分(たち)の活動の現状をメタ認知する上で効果的な活動である。対話的な学びとメタ認知スキルにはこのような関連がある。さらにプロジェクト型の活動を進める上で、これからどうするのか、次はどのようにすれば良いのかという未来志向的な考え方も求められる。メタ認知した現状に対して次はこうしたいと考える機会を生み出す場がサークル対話や「てつがく」対話だととらえている。

以上が研究開発の目標と本単元の目標との関係性の概要である。ただし本題材では、(コロナ感染拡大防止や)新たに挑戦している子どもたちが作成した掲示物を必要に応じて相互に見合うという形式を取っている。まずは子どもたちの素直な言葉を表出できる空間を創造したという学級担当者の学級特性を踏まえた願いを基にして、それをステップに対話につなげていくことを構想しているのである。

### 5. 単元における目標

- 自分がやりたいことに没頭しようとする。
- 自分の実際の活動をふり返りを行おうとする。

### 6. 単元計画

第1次 2学期～9月末まで (全10時間)

- ・プロジェクトの活動、ゴール(目標)を考える
- ・お試し期間(やってみて違ったなと思ったらプロジェクトを変更できる期間)
- ・活動 グループでの活動は15分間のみ それ以外は個人で進める(コロナ対応)

第2次 10月から11月 (本時 21時間目 / 全27時間)

- ・グループで没頭する
- ・写真の記録をつける
- ・作戦会議(グループの子どもたちと教師で) 2週間に1回

第3次 ~12月 (全12時間)

- ・他者意識を持ち、グループの活動の発表を考える
- ・写真の記録と振り返り
- ・自分たちで作戦会議

7. 授業の目標  自分の活動に没頭し、自分自身で振り返りを行おうとする。

### 8. 授業の展開

プロジェクトの活動時間は週に2回（2時間ずつ）である。子どもたちは、各グループに分かれて活動する。（グループで最大15分、個別に15分、片付け10分、振り返り15分）コロナ対策で、現在は1度のグループ活動は15分に限定しており、2時間続きでプロジェクトの授業がある際も、グループ活動は15分、個人作業をして換気をしてから、また15分間のみとっている。段ボールプロジェクトA、段ボールプロジェクトB、段ボールプロジェクトC、段ボールプロジェクトD、歴史プロジェクト、植物プロジェクト、宝石プロジェクト、地図記号プロジェクトの計9個のプロジェクトがある。それぞれにいろいろな問題にぶつかることも多いが、互いに声をかけ合いながら取り組む姿が予想される。

子どもたちは1学期からプロジェクトの活動に継続的に取り組んできた。また、教師自身も1学期からの授業を夏休みに省察した。その中で教師の声がけや子どもたちの振り返りの内容に着目し、2学期の活動に生かしている。振り返りにおいて、子ども自身がiPadで写真を取り、それを教室で印刷する。その写真をふりかえりの用紙に貼り、題名をつけるようにしている。さらに、その時のエピソードや、その時感じたこと、思ったことを自由に書くように伝えている。そのような振り返りが実を結びつつあり、子どもたちは自分の素直な言葉が出るようになり、よかったことだけでなく、嫌だったことや困ったことも少しずつ出せるようになってきている。

子どもたちは自分がしたいことへの思いがとても強く、もめごとは毎回どこかのグループで起こっているが、全てのことに教師が介入するのではなく、子どもたちの様子を見守っている。子どもたち同士の関わりを大切にしながらも、その中で、子どもたちの思いがうまく言葉にできなくて誤解を招いている場合などの、タイミングを見て教師は介入している。

プロジェクトの活動は、子どもたちにとってとても楽しい時間であることは、子どもたちの表情や振り返りからも伝わってくるが、それと同時にプロジェクトの時間を苦手と感じている子どももいる。現段階では、そのグループの子どもたちがこれからプロジェクトとという時間とどうやって向き合っていくのか、教師としてどう関わっていくのが良いのか考えていきたい。そして、子どもたちの言葉や思いを大切にしながらプロジェクトの時間を進めていきたい。

| 主な学習活動と子どもの姿              | 留意点                                    |
|---------------------------|--|
| 1 グループごとに今日の活動の確認と活動（15分） | ○自分の気持ちを伝え、相手の気持ちも受け止めた上でどうしたら良いのか相談する |
| 2 個での活動（20分）              | ○自分がやるべきことを理解している                      |
| 3 片づけ（10分）                | ○協力して片付ける、現状復帰                         |
| 3 振り返り（15分）               | ○自分の実際の姿を振り返る                          |